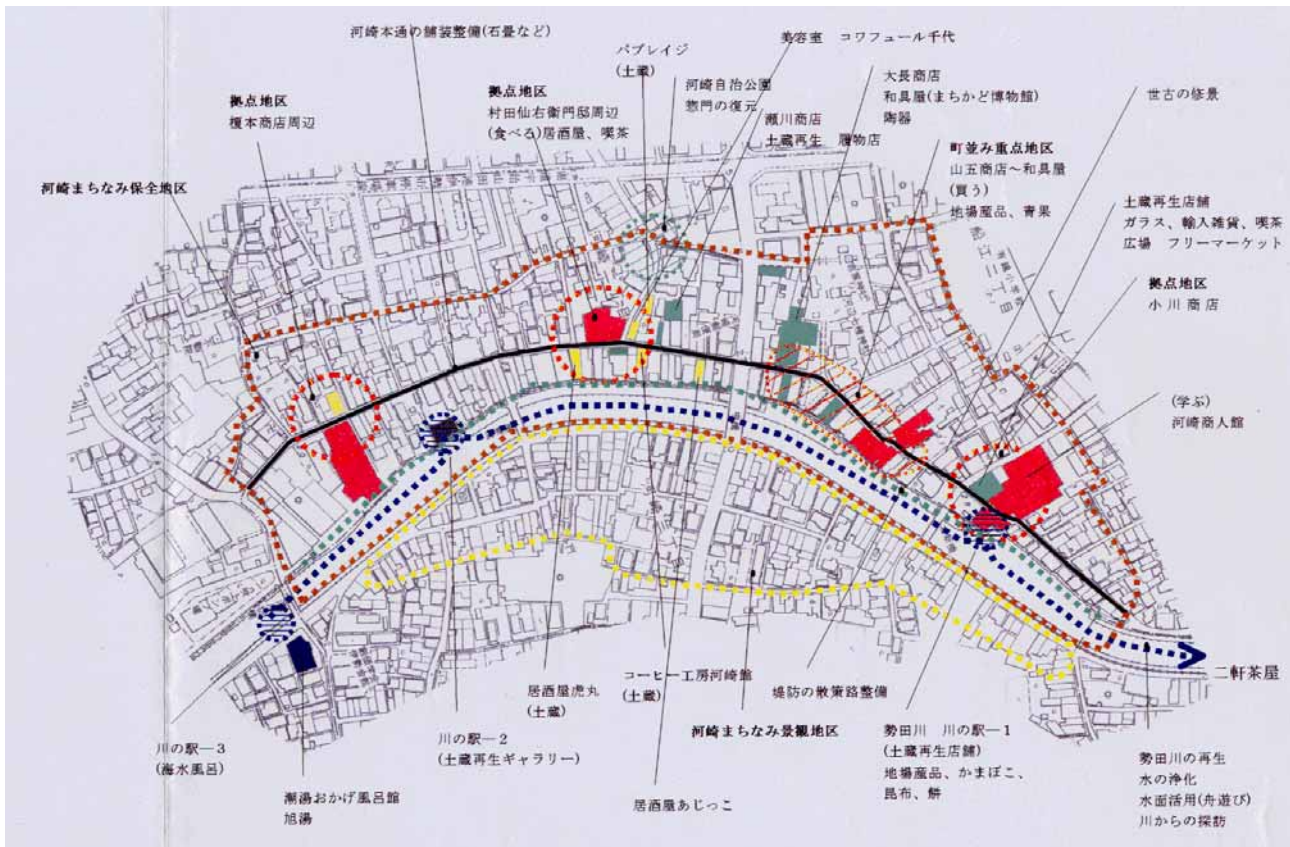


市民と行政の協働作業により、歴史遺産を市民活動の拠点に～三重県伊勢市～

伊勢市河崎地区は勢田川の水運を利用した問屋街として発展してきたまちです。戦後、輸送手段の変化によって衰退しましたが、市民参加型の都市マスタープランで歴史文化交流拠点に位置づけられたことがきっかけとなり、市が拠点施設整備を、市民団体が管理運営をそれぞれ担う、協働型まちづくりが展開されています。



河崎まちづくり全体基本構想図

出典：NPO法人伊勢河崎まちづくり衆（平成13年3月）

## 【歴史的な町並みと勢田川の改修計画】

伊勢河崎は、勢田川の水運を活かしたかつての問屋街です。水運隆盛の時代が去り、徐々に問屋街としての機能は衰退していきましたが、独特の意匠をもつ蔵を中心とした重厚な町並みが今に残されています。

伊勢の歴史ある町並みが戦災により失われた中で、この河崎の町並みは戦被を免れましたが、昭和 49 年 7 月 7 日に伊勢市を襲った集中豪雨によって、勢田川の改修計画が持ち上がりました。そのなかで、河崎の町並みの特徴であった、両岸に連なる家や蔵、基礎の石垣、船着き場といった美しい景観が失われていきました。

この間、河川改修計画に対する地元市民の異議申立から、河崎の町並みの再発見と保存運動が展開されましたが、当初は河川改修計画を推進する行政と保存運動を主張する市民団体が対立する構図の中にありました。



伊勢河崎の町並み

出典：伊勢市・伊勢市観光協会観光案内



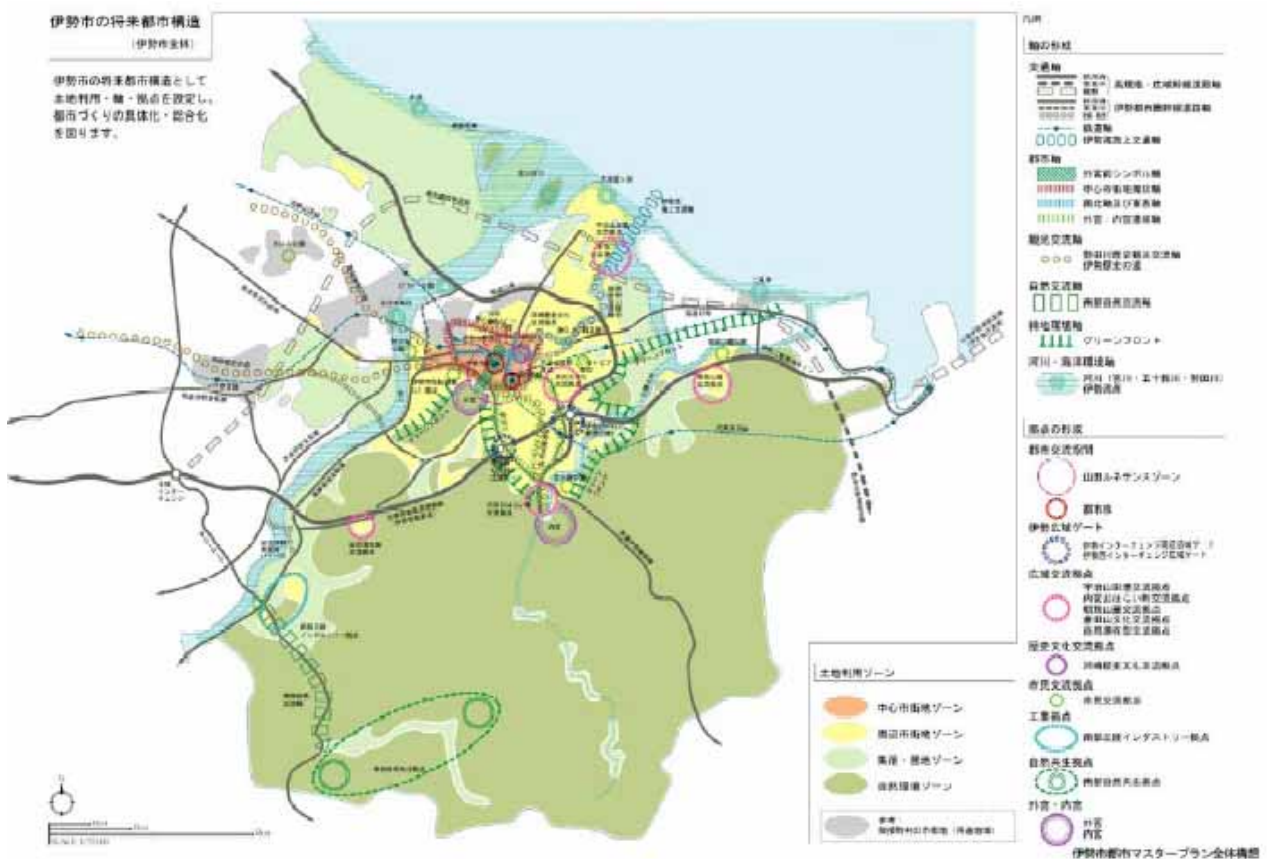
河川改修前の町並み

出典：伊勢市勢田川科学調査団報告書（昭和 53 年 8 月）

【都市マスタープランの策定と協働による拠点施設計画】

勢田川改修事業が進展していく中で、伊勢市は、都市マスタープラン（平成9年7月公表）を市民参加型で策定し、河崎地区を「河崎歴史文化交流拠点」、また河崎を流れる勢田川を「勢田川歴史観光交流軸」と位置づけました。また、地域別の市民ワークショップによって提案された地域別構想案から、拠点施設整備が実現することになりました。

拠点施設となる「伊勢河崎商人館」の建築設計にあたっては、河崎まちなみ拠点整備計画策定委員会を開催し官民協働で取り組みました。



伊勢市都市マスタープラン全体構想

出典：伊勢市HP (<http://www.city.ise.mie.jp>)

## 【NPO法人の設立と地域全体で取り組むまちづくりへの展開】

伊勢河崎商人館の運営管理の受け皿として市民の活動団体がこれまでの関連団体を集結する形で「NPO法人伊勢河崎まちづくり衆」を設立し、伊勢市から事業を受託しています。

また、河崎地区の地域団体（自治会、老人会、学校など）を包括した地元団体を組織化し「河崎まちづくり協議会」を立ち上げ、平成15年度には、明治時代の蔵を活用した「川の駅」が完成した。これにより、これまで有志団体に依存してきたまちづくりを、河崎地域全体で取り組むことができる体制を整え、発展していくことが期待されます。



伊勢河崎川の駅  
（明治時代の蔵を活用）



伊勢河崎商人館 商人蔵前景  
：奥から壺の蔵（食料品の店）  
：式の蔵・参の蔵（食品・雑貨の店）



伊勢河崎商人館  
：河崎まちなみ館（中央：展示館）  
：河崎角吾座（奥：イベント館）